

私と国際学会:
脳波・筋電図データ処理国際カンファレンス(International Conference on EEG and EMG Data Processing)をお世話して

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-01-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00053003

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



私と国際学会 脳波・筋電図データ処理国際カンファレンス (International Conference on EEG and EMG Data Processing) をお世話して

山口 成良

金沢大学名誉教授, 松原病院名誉院長

「脳波・筋電図データ処理国際カンファレンス」を日本で行ったかどうかという話しを、初めて前東京教育大学教授の寿原健吉先生からお聞きしたのは、丁度東京で第3回国際睡眠学会が行われていた1979年7月の頃だったと思う。その年の10月に長崎で第13回日本てんかん学会が開催されていた折に、島蘭安雄教授から正式に、私と福井の藤澤清先生とでその世話役をして欲しいとの依頼があり、やがてその年の12月に日本脳波・筋電図学会（現在の日本臨床神経生理学会）の理事長の吉井直三郎先生から私に、同国際カンファレンスの事務総長、運営委員長を委嘱するという委嘱状が送られてきた。また、国際脳波・臨床神経生理学会議の会長のDr. Naquetからも、日本で同国際カンファレンスを開催して欲しいとの手紙が来た。何回か企画委員会を開いて、座長、演者、討論者をきめ、手紙のやりとり（当時電子メールがなかった）をして、1981年9月10日から3日間、日本脳波・筋電図学会主催で、金沢大学医学部十全講堂で開催した。その内容の詳細については、カンファレンスの始まる前に、私と藤澤先生で編集し、オランダのElsevier社から発行された「Recent Advances in EEG and EMG Data Processing」（総頁数421頁）をみていただいた（写真1）。

国際会議を、金沢の神経精神医学教室がお世話して開くということは初めてのことであり、色々戸惑ったことも多かった。特に外人との手紙のやりとりでは、金銭（旅費）のこと、時間（原稿締切り）のことで、きちんとしていなければいけないということであった。参加費は2万円（当時で約95ドル）で、日本万国博覧会記念協会からも補助金150万円をいただいた。

3日間のカンファレンスのSession IはTheory and Instrument, IIはAnalysis of Basic Rhythm, IIIはApplied Physiology, IVはClinical EEG and Related Events, VはClinical EMG and Related Eventsであった。参加者は国内が168人、国外が40人であった。外国からの参加者を国別にあげると、アメリカ10人、デンマーク7人、オランダ5人、ドイツ4人、イギリス3人、フランス、台湾、スウェーデン各2人、



（写真1）



（写真2）

ベルギー、スイス、オーストラリア、フィンランド、アルゼンチン各1人であった（写真2）。

カンファレンス中も、Dr. Walterから“Organization facilities are splendid”と称賛の言葉があり、また会が終わったあとで、国際脳波・臨床神経生理学会議の次期会長に選ばれたDr. Ellingsonからも、「I want to thank you for the opportunity to speak at the Kanazawa Conference and for the warm hospitality extended by you and your colleagues. I thought that the Conference went splendidly.」というお礼の手紙も届けられた。このように盛会裡にカンファレンスを終了出来たのも、ひとえに当時の日本脳波・筋電図学会の会員諸賢のご協力と、金沢大学教室同窓会会員各位の物心両面にわたるご支援のお蔭だと思っています。